

報告事項カ

「中学生向け英語副教材」について

「中学生向け英語副教材」について、別紙のとおり報告します。

平成26年4月15日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

「中学生向け英語副教材」について

平成26年4月15日
高等学校課

1 作成の経緯

平成25年度鳥取県英語教育推進委員会において、本県の中学校と高等学校の英語教育連携上の課題について協議が行われ、基本的な英文の定着が不十分であるとの指摘がなされた。これを受けて県教育委員会では、対話活動によって定着を図る中学生向け副教材を作成し、課題解決に資することとした。

本教材の作成に当たっては、県英語教育推進委員（別紙1）の内、中学校と高等学校の教員を副教材作成委員とし、現場のニーズに合わせて、授業や家庭学習で使いやすいものとなるよう工夫した。また、各学校で編集して使えるようにCDで電子データも添付した。

2 特長

- (1) 生徒が自分で考えて答える部分に対話の中に設定することによって、主体的に対話練習に取り組めるようになっている。
- (2) 一つ一つの対話が短時間で取り組めるものになっているので、授業のウォームアップとして毎時間活用できる。
- (3) 副教材で扱われている基本文と教科書との対照表を掲載して、教科書基本文の応用練習として活用できるようになっている。
- (4) 対話を活用したスピーキングテストを実施することにより、生徒の話す力の評価をすることができる。
- (5) 巻末に基本文の一覧表を掲載しており、家庭学習等で自己点検できるようにしている。

3 配布について

- (1) 配布物
 - ①中学生向け副教材「シャトル・チャットで覚える基本英文」1冊
 - ②活用についての指示書1枚（別紙2）
 - ③副教材データCD1枚
- (2) 配布先
 - ①県内小・中・高等学校及び特別支援学校
※中学生向けの副教材であるが、小学校から高校まで一貫した英語教育推進のため、全ての校種に送付することとした。
 - ②市町村（学校組合）教育委員会
- (3) 配布時期
平成26年4月

4 活用の方法

配布する指示書の中で、本教材の特長や授業や家庭学習における活用例を示し、広く活用されるよう依頼する。

また、今年度の英語教育推進会議で活用について協議する。

鳥取県英語教育推進委員一覽

名簿

	氏名	所属	職名	推進会議	副教材担当
1	山岡 憲史	立命館大学教育開発推進機構	教授	○	
2	巽 徹	国立大学法人岐阜大学教育学部	教授	○	
3	福島 卓也	鳥取東高等学校	教諭	○	○
4	辻中 孝彦	鳥取西高等学校	教諭	○	○
5	中村 満	八頭町立中央中学校	教諭	○	○
6	宇城 明	米子市立美保中学校	教諭	○	○
7	片山 敬子	鳥取市立瑞穂小学校	校長	○	
8	佐藤 秀樹	智頭町立智頭小学校	教諭	○	
9	福光 浩	倉吉東高等学校	教諭		○
10	景山 浩之	米子東高等学校	教諭		○
11	河中 俊文	鳥取市立湖東中学校	教諭		○
12	浜根 智子	倉吉市立東中学校	教諭		○
13	伊藤 小織	湯梨浜町立北溟中学校	教諭		○
14	赤坂 正志	伯耆町立溝口中学校	教諭		○

英語教育推進委員会

- 第1回 平成25年 7月12日(金) 白兔会館 2階 「おしどり」
第2回 平成25年10月 1日(火) 白兔会館 2階 「こうのとり」
第3回 平成25年12月19日(木) 倉吉未来中心 セミナールーム4

英語教育推進委員会副教材作成担当者会

- 第1回 平成25年 8月20日(火) 倉吉体育文化会館 小研修室2
第2回 平成25年 9月27日(金) 倉吉未来中心 セミナールーム2
第3回 平成25年12月 3日(火) 倉吉未来中心 セミナールーム1

(別紙2)

「シャトル・チャットで覚える基本英文」の活用について

鳥取県教育委員会事務局
高等学校課英語教育推進室

1 はじめに

本教材は、鳥取県英語教育推進委員会の委員である中学校、高等学校の先生方が、日頃から生徒の英語力向上における課題として感じていることに対して、「こんな教材があったら現場での指導に役立つ。」という思いから作成した中学生向け教材です。

「授業の中で基本的な語彙や文構造を定着させるためのペア活動に取り組んでいるが、語彙、語順がなかなか定着しない。」とか、「文脈の中で場面に応じた表現が使えない。」といった課題に対して、「場面を設定し、文脈を意識した練習を続ければ、基本文型が定着し、自分の考えを交えながら対話を発展させることができるようになる。」という仮説に立って作成したものです。

タイトルをシャトル・チャットとしたのは、基本表現を取り入れたチャット（おしゃべり）をペア間でシャトルのように往復させることによって、英語を使って自分のことを相手に伝えることができるようになってほしいという願いからです。

中学校外国語教育の目標はコミュニケーション能力の基礎を育成することです。小学校の外国語活動で、英語を話したり聞いたりする積極的な態度を身に付けた子どもたちを、英語で授業が行われることが基本となっている高等学校へと送り出していけるよう、中学校においても、コミュニケーションの手段としての英語力を身に付けさせることがますます重要になってきています。そのような要望に応えるために、この教材が広く活用されて、生徒のコミュニケーション能力の育成につながることを願っています。

2 本教材の特長

- ・既習の言語材料を繰り返し練習することで、英語が自然と口から出るようになる。
- ・短時間でも取り組めるので、毎時間の授業のウォームアップとしても活用できる。
- ・1回で2ページにわたる全スキットを扱わなくても、番号を指定して少量ずつ練習することもできる。
- ・決められた対話の中に、個人の考えや意見を挿入することができる。
- ・学年ごとの最初のページに教科書対照表を掲載し、教科書の基本文に対応して練習ができる。

3 活用の工夫例

【授業での活用】

- ・取組当初はシートを見ながら読む活動になるが、慣れてくれば Read and Look up 活動により、できるだけ本文を見ない取組にする。
- ・アイコンタクトやうなずき、表情、ジェスチャー等を意識させる。
- ・付属の電子データを活用して、生徒の実態に応じて、必要と思われる言語材料を組み込んで、シートを作りかえることもできる。
- ・活動後に数組の生徒に演じさせたり、授業者と会話をさせたりして、学習状況を点検する。
- ・話すことの評価をする際には、スキットを活用したスピーキングテストに応用することもできる。

【家庭学習での活用】

- ・家庭学習用の課題プリントとすることができる。
- ・対話文例を元にオリジナルスキットを作成させる。
- ・作成したオリジナルスキットを音読、暗唱させる。
- ・生徒自信がキーセンテンス一覧表で暗唱レベルに応じたセルフチェックをする。